

平成24年2月

塚本和充 学位論文審査要旨

主査 中島健二
副主査 大野耕策
同 小川敏英

主論文

Significance of apparent diffusion coefficient measurement for the differential diagnosis of multiple system atrophy, progressive supranuclear palsy, and Parkinson's disease: evaluation by 3.0-T MR imaging

(3テスラMRIを用いた多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、パーキンソン病における見かけの拡散係数値測定の有用性について)

(著者：塚本和充、松末英司、金崎佳子、柿手卓、藤井進也、神納敏夫、小川敏英)

平成24年 Neuroradiology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は3テスラMRIを用いて多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、パーキンソン病における疾患特異的な変性部位に詳細な関心領域を設定して見かけの拡散係数(ADC)値を測定し、その有用性を検討したものである。その結果、病理学的に変性が認められる部位に一致した領域でADC値の上昇が認められた。従って詳細な関心領域を設定してADC値を測定することは、これらの疾患鑑別に付加情報を与えうると考えられた。本論文の内容は、変性疾患において、詳細な関心領域を設定したADC値測定の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。